

審議会等の会議結果報告書

課所名

高齢者福祉課

会議名 令和2年度 第4回 諏訪市高齢者福祉計画・介護保険事業計画推進委員会

開催日時 令和3年3月15日(月) 13時30分 ~ 14時30分

開催場所 諏訪市役所 302会議室

出席者 (出席者) (敬称略)
 諏訪市長 金子ゆかり
 推進委員会
 委員長 松本宙明 副委員長 小澤清一
 委員 笠原健一 牛山正裕 蟹江弓子 富田和彦 今村貴保 三好一二三 神永記男
 若尾昌充 小泉敏夫 知見寺園子 村田千壽 宮坂正義 武川正
 事務局
 健康福祉部長 関隆雄
 高齢者福祉課長 河西一浩 介護保険係長 徳永理恵
 高齢者福祉係長 有賀恵 同係主査 伊藤雅文 同係主任 両角あずさ

資料
 ・令和2年度 第4回 諏訪市高齢者福祉計画・介護保険事業計画推進委員会～次第～
 ・諏訪市高齢者福祉計画・第8期介護保険事業計画(案)
 ・計画変更・修正点一覧表

協議議題(内容)及び会議結果

1 開会 (河西課長)

2 あいさつ (松本委員長)

3 協議事項

(1) 本日のスケジュールについて (事務局)

(2) 高齢者福祉計画・第8期介護保険事業計画(案)について (事務局)

(委員)

・資料やグラフに見づらい部分がある。色の濃淡にも注意が必要。

(事務局)

・印刷業者と相談し、修正予定。

(委員)

・ここ数年認知症の相談が増えた。この会議後も認知症の人の家に民生委員と行く。委員会への参加は勉強になった。

(委員)

・アンケートから始まり、文章にまとめることは大変だった。高齢者、障がい者へサービスを提供しているため、今後は計画の推進に協力する。

(委員)

・何度も検討してきた。文章にするときれいに聞こえるが、実践することの重みを感じている。

(委員長)

・その他に意見があれば出してほしい。無ければ拍手をもって本計画案を策定委員会で承認することとしたい。

—全員拍手

(委員長)

・委員一同より賛同を得られ、本計画を市長へ提出する。皆様のおかげで計画が策定できた。ありがとう。

(3) その他 (事務局)

- ・印刷までの修正について、事務局に一任。
- ・印刷製本し、配布は5月以降となる。

4 諏訪市高齢者福祉計画・第8期介護保険事業計画(案)を市長へ提出

(1) 市長へ提出 (委員長・副委員長)

(2) 市長あいさつ

コロナ禍様々なご配慮をいただきながら、昨年度含めると5回にわたり、委員会にご参加いただき感謝申し上げます。諏訪広域連合策定の介護保険事業計画も大詰め。介護人材の不足について、皆様から切実な状況をお伝えいただき、対策についても現場の声を伝えていただいた。専門職が不足しており、高齢者がその支え手になるには、高齢者自身が健康であることが必要。これについても様々なご意見をいただいた。コロナは収束していないが、地域包括ケアシステムの構築について「誰もが元気に安心して暮らせるまちづくり」をスローガンに、目標を達成していきたい。今後はその成果の検証をしていくが、今後のご指導お願いします。

(3) 市長と懇談

(委員からの意見・感想)

- ・高齢者、特に認知症高齢者に対してより良い支援をしたい。利用者様が幸福と感じるサービスを提供するには、介護人材の不足が問題。コロナ禍でスタッフは頑張っているが、精神的な不安(自身がコロナ感染者となった場合)がある。介護職員が働きやすい環境について行政の力を借りたい。
- ・地域で支え合う体制づくりが大切であることを感じた。必要としている人に必要なサービスを提供するには、サービス種類や量を見直すことが必要。今回の計画で数値目標を入れたが、実行したことの評価がしやすく、計画の機能性があがってくる。
- ・この一年介護相談員の活動ができなかったが、各介護施設の職員不足を感じる。介護職員の能力も問題。施設に入所していると高齢者は重度化するため、職員に負

がかかる。職員は頑張っているが、負荷緩和のための支援が必要。

- ・多くの介護人材を育てたいが、養成校も人集めが困難。介護職が求められていることを若者に対して発信したい。諏訪地域をよい介護ができる地域にしていきたい。
- ・口腔に興味を持ってもらえるよう歯科医師会としても周知していきたい。
- ・実際市民の方がどうすればサービスを利用出来るか、また計画を実行できるか、薬剤師会としても勉強し続けたい。
- ・事業所の様々な活動周知について、今後も多くの方にご協力いただきたい。幸福度の感じ方は人それぞれ違う。同じ環境でも幸せを感じることは違う。興味深い。
- ・この計画を実行することに尽力したい。

(委員長)

皆様お疲れ様でした。コロナについては計画上1ページとなっているが、具体的な解決方法は何も決まっていない。まとめようとする新しい難題が湧いてくる。2025年は次の3年後の計画を立てる時。今の目標を達成しないと流れに追いつかない。次も同じような課題が出てくるのでは、介護現場は混乱する。この3年間は大切。具体策が達成できているか、節目で振り返りが必要。ご協力ください。

(市長)

2025年には団塊の世代が後期高齢者、20年後には団塊ジュニアが高齢者となり、高齢化率は40%を超える。今までと同じ高齢者支援はできない。「健康長寿の延伸」がキーワードとなる。高齢になっても自分のことをし、余力を持って人の支援をすることで、高齢社会でも豊かに生活できる。介護職のみならず、どの業界も人材不足。予防していても介護状態になることはある。その時に支えてくれる基盤があること、その大きな指針をみなさんが作ってくれたこと、感謝します。

幸福度は「幸せの尺度」。ありがたいと言える人は幸せの尺度が高く、ありがたいが増えると幸福度が上がる。人によって解釈が違うため対応には柔軟性が必要。

福祉にも補完性の原理原則が当てはまる。災害時、自分の命を支えることを最優先し、近所の人を救助をする。すぐに自衛隊が来るわけではない。身近な支え合いを強化することが大切。今回の計画でも、元気な高齢者を増やし、高齢者同士が支え合うことを提言してくれ、心強い。行政はバックアップする。

5 その他（事務局）

- ・今後の推進委員会について

6 謝辞（関健康福祉部長）

委員長、副委員長、推進委員の皆様、本当にありがとうございました。立派な計画を実行に移すのはこれから。市民が「誰もが元気に安心して暮らせるまちづくり」に取り組めるよう、この計画書がバイブルとなる。実効性があるよう、取り組んでいく

ことが必要。

第5次総合計画策定中に東北の震災があり、その計画は今年が最終年。この10年で諏訪市は大きく変化した。今回の計画策定中コロナが発生し、委員から多くの意見をいただいた。心から感謝申し上げる。

7 閉会（副委員長）

4回の委員会、コロナ禍でのご参加、活発な

ご意見をいただき、計画案を提出できた。立派な計画が実行できるよう、計画書が眠らないように今後も皆様にはご尽力いただきたい。